

[専門教育関連科目/健康と健康障害の理解]

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
栄養学	NSF22_002	必修	1	2	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
永井 正則	教員控室	mnagai	授業終了後に質問等受付		
授業の目的・概要	〈目的〉人にとって不可欠な“食べる”という行為を、栄養という面から捉えることで食行動や食品に体する理解を深める。同時に、疾病の予防・治療、栄養指導など将来現場で求められる知識の基礎を身につける。〈概要〉自宅学習課題と同時双方向型授業により学習する。				
学習上の助言	体構造機能学と生化学の復習も交えて授業を行う。自宅学習は予めメールで学習課題を各自に送り、レポート提出を求め、その後フィードバックをする。同時双方向授業では、その授業で学んだこと、わかりづらかった点、質問などをリアクションペーパーとして授業後に提出することを求める。わかりづらかった点や質問には次回以降の授業時に対応する。				
教科書	新体系看護学全書 人体の構造と機能2 栄養生化学/編: 脊山洋佑 他/メジカルフレンド社 (1年次の生化学で使用したもの)				
参考書	1) 人体の構造と機能 (第5版) /著: 内田さえ 他/医歯薬出版 (1年次に使用したもの) 2) 糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版/日本糖尿病学会/分光社/2013 3) 食品成分表 2015年版 (7訂) /香川明夫監修/女子栄養大学出版部				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	消化・吸収のメカニズムを理解し説明できる	NS (1)(4)			
②	五大栄養素の働きについて理解し説明できる	NS (1)(4)			
③	健康の維持・増進と栄養との関わりを理解し、いくつかの実例を挙げて説明できる	NS (1)(4)			
④	日常生活や運動時のエネルギー代謝について理解し説明できる	NS (1)(4)			
⑤	ライフステージと栄養について理解し説明できる	NS (1)(4)			
授業計画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間(時間)		
1	「経管栄養と輸液」: 看護師として携わることの多い、経管栄養と輸液について、それぞれの利点と問題点について学ぶ	印刷教材等での授業(課題の送付、レポートの提出、フィードバック)	「経管栄養と輸液の利点と問題点」についてレポート提出、フィードバックはメールで配信する。	3	
2	「糖尿病の食事療法」: 糖尿病の成因と合併症などを再確認し、糖尿病の食事療法の実際を学ぶ。		「糖尿病の食事療法」についてレポート提出、フィードバックは同時双方向型授業の中で行う。	3	
3	「高齢者の誤嚥と肺炎」: 咀嚼と嚥下のメカニズムを再確認し、高齢者の誤嚥と肺炎、およびその予防法を学ぶ。		「高齢者の肺炎と誤嚥」についてレポート提出、フィードバックは同時双方向型授業の中で行う。	3	
4	「歯列矯正のメカニズム」: カルシウムの吸収と代謝、骨形成と骨吸収のメカニズムを再確認し、歯列矯正で歯列が移動する理由を考える。		「歯列矯正で歯が動くのはなぜ?」: 破骨細胞と骨芽細胞を説明し、歯列矯正で歯が動く理由を考えてレポート提出、フィードバックは同時双方向型授業の中で行う。	3	
5	「排便のメカニズム」: 消化管の運動への自律神経の作用と排便のメカニズムを再確認し、下痢・便秘の理解へとつなげる。		「排便のメカニズム」についてレポート提出、フィードバックは同時双方向型授業の中で行う。	3	
6	「止血とビタミンK依存性血液凝固因子」: 止血機構を再確認し、抗凝固薬とビタミンKを含む食品の関係を理解する。薬物と栄養素の相互作用や検査食などについて学ぶ。		「止血とビタミンK依存性血液凝固因子」についてレポート作成、フィードバックは同時双方向型授業の中で行う。	3	
7	「日本人の食生活と自身の食生活」: 日本人の食生活の近年の傾向について学ぶ。大学生の食生活について統計データをもとに考える。		「日本人の食生活と自身の食生活」についてレポート提出、フィードバックは同時双方向型授業の中で行う。	3	
8	栄養素とその働き①: 脂溶性ビタミンの種類と働き、それらの欠乏症について学ぶ。参考書3)と「日本人の食事摂取基準」(教科書第11章)の使い方を学ぶ。	同時双方向型授業	授業と事前に Teams により配信した資料から「脂溶性ビタミンの種類と働き」と「水溶性ビタミンの種類と働き」について理解する。	1	
9	栄養素とその働き②: 水溶性ビタミンの種類と働き、それらの欠乏症について学ぶ。			1	
10	栄養素とその働き③: ミネラルについて学ぶ。食塩と血圧、カリウムと腎機能、カルシウムと骨代謝などについて学ぶ。		授業と事前に Teams により配信した資料から「ミネラルの菓類と働き」について理解する。	1	
11	栄養素とその働き④: ミネラルについて学ぶ。鉄の動態と貧血、亜鉛と味覚、ヨウ素と甲状腺機能などについて学ぶ。			1	
12	栄養素とその働き⑤: 糖代謝、タンパク質の代謝、脂質代謝について知識を確認する。		授業と事前に Teams により配信した資料から「糖、タンパク質、脂質の代謝」について再確認する。1年次の「生化学」学習内容も参照する。	1	
13	エネルギー代謝①: エネルギー代謝の測定法、基礎代謝の推定法、推定エネルギー必要量などについて学ぶ。		授業と事前に Teams により配信した資料から「基礎代謝の推定法や推定エネルギー必要量」について理解する。	1	
14	エネルギー代謝②: 身体活動とエネルギー代謝、METs について、アスリートと栄養について学ぶ。		授業と事前に Teams により配信した資料から「身体活動とエネルギー代謝」について理解する。	1	

[専門教育関連科目/健康と健康障害の理解]

15	ライフステージと栄養: 加齢とサルコペニア、フレア、妊娠期の栄養、母乳と栄養などについて学ぶ。	授業と事前に Teams により配信した資料から「高齢者と栄養」、「妊娠期と授乳期の栄養」について理解する。	1				
試	定期試験 達成度評価・評価のポイント参照						
達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		70	30	0	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	50	0	0	0	0	50
	思考・推論・創造する力	20	20	0	0	0	40
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	10	0	0	0	10
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0
評価のポイント							
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点				フィードバックの方法	
試験	①	✓	定期試験を行う。試験の配点は70点とし、基礎的知識を問う問題と応用的問題を出題する。試験に先立って、問題集を配布する。問題集はサブノートとして利用できるよう工夫されているので講義終了後も活用してほしい。	定期試験後に試験問題の解答と解説を配布する。			
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
レポート	①	✓	自宅学習課題のレポートは7課題で30点として評価する。	レポートは1~2課題ごとにフィードバックする。			
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
備考							
Teams を使って遠隔授業を行います。課題ダウンロードなどがありますので、通信容量制限がある場合は通信料に十分に注意してください。同時双方向型授業は時間割に沿って行います。10分前には準備を整えておいてください。今後、シラバスが再び変更される可能性があります。							